

## 1 本時の目標

- 1 生徒自身が問いを立て、探究し、解決方法に対話の中で考える。
- 2 持続可能な社会の実現に向けて、社会のあり方そのものを再検討し、社会に関わろうとする。

## 2 授業展開の骨子 (50分×2)

時間	段階	教師と生徒のインストラクション	資料
0	導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 企業の社会的責任 (CSR) について概略を捉える                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実在する消費者問題との出会い</li> <li>・ 問題の概要把握</li> </ul> </li> <li>▶ 企業の社会的責任 (CSR) に関する問いを生徒自身で立てる                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜ企業の社会的責任 (CSR) が行われているの?</li> <li>・ 企業の社会的責任 (CSR) ってほんとに意味があるの?</li> <li>・ 何をすることが企業の社会的責任 (CSR) といえるの?</li> <li>・ 企業の社会的責任 (CSR) は大事なことなのになぜ日本ではそんなに広がっていないの?</li> <li>・ 企業の社会的責任 (CSR) を広げるためにどのようなことができるの? など</li> </ul> </li> <li>▶ グループで対話する問いを決定する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自が立てた問いを全員で共有し、検討</li> <li>・ 投票により、対話する問いを決定する</li> </ul> </li> </ul>	<p>企業の社会的責任 (CSR) の事例 (資料参考URL)</p> <p>ワークシート2</p> <p>ワークシート3</p>
25	展開1	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 問いに対する考えをつくる                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主張を要約としてまとめる</li> <li>・ 主張の根拠となることを明らかにする</li> </ul> </li> </ul>	ワークシート4
50	展開2	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 各々の主張を踏まえて対話をする                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒らのもつ疑問をもとにして、自由に対話を進める</li> <li>・ 自分の主張との共通点と相違点を明らかにする</li> <li>・ 対話を通して、消費者問題に対する価値をあぶり出していく</li> <li>・ 教師は、ファシリテーターとして問いを深めていく</li> <li>・ コミュニティボールを回しながら、対話を進める</li> <li>・ 発言者を尊重する (じっくり待つ、否定しない、急かさない) というセーフティを保障する</li> <li>・ 思考を深めるためのツールキットを活用する</li> </ul> </li> </ul>	ワークシート5
80	終結	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 対話を終えた段階での自分の考え方をまとめる                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対話前との変容を意識してまとめる</li> <li>・ 消費社会はどうあるべきで、企業や個人はそれとどう関わっていけばよいのか考えを持つ</li> </ul> </li> </ul>	ワークシート6
100		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ まとめたことを発表する</li> </ul>	

### 資料参考URL

- 1 消費者庁 消費者志向自主宣言・フォローアップ活動  
[http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_research/consumer\\_oriented\\_management/businesses/](http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/consumer_oriented_management/businesses/)
- 2 働き方改革と企業の取り組み  
「市民のワークライフバランスを守る」責任としてのCSR  
[http://www.cao.go.jp/wlb/research/wlb\\_h2903/chapter4-1.pdf](http://www.cao.go.jp/wlb/research/wlb_h2903/chapter4-1.pdf)
- 3 消費者市民について  
<http://www.caa.go.jp/information/pdf/130228leaflet.pdf>
- 4 外務省SDGs  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>
- 5 消費者庁SDGs  
[http://www.caa.go.jp/about\\_us/about/plans\\_and\\_status/sdgs/](http://www.caa.go.jp/about_us/about/plans_and_status/sdgs/)

### COLUMN

#### 『SDGs』って、なんだろう? — 消費者教育とSDGs —

今、持続可能な開発目標 (SDGs) がさまざまな場で注目されています。今回の学習指導要領の改訂で新設される「公共」や「政治経済」においてもSDGsが注目され、SDGsを題材とした授業の展開が期待されています。持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなどに関わる17のゴール・169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、日本としても積極的に取り組んでいかなければならない取り組みです。

SDGsがこれまでの取り組みと異なるのは、すべての人々にとって「どういう状態になっていなくてはならないか」という成果目標、つまりあるべき未来像に向けた取り組みということです。この未来像を達成するためには、国や専門家レベルの取り組みだけでは不十分で個人や企業を巻き込んだ取り組みが必要となります。

本冊子で紹介した授業は、「企業の社会的責任 (CSR)」について対話を通して探究するというものですが、授業では企業の責任や消費者の責任、働き方改革、環境・格差問題の解消など、SDGsにつながるような対話が多くみ

られました。このようにSDGsに向けた取り組みや解決策を考える授業や、SDGsを設定し、持続可能な開発のための取り組みを生産や消費の観点から考察する授業など、消費者教育ではSDGsに関する様々な授業が考えられます。消費者教育はSDGsについて考え、行動する上でも大きな可能性を秘めています。





# 企業の社会的責任 (CSR) について考える

年 組 番 氏名 [ ]

**1** 本時のテーマ：対話を通して企業の社会的責任 (CSR) について考えよう

**2** 資料をもとに企業の社会的責任 (CSR) に関する問いをそれぞれ考えよう。

- 問いを考えるための視点1 - どのような「？」を立てるとよい? -  
「どのような?」「何?」「なぜ?」「どうすればよい?」「本当にそう?」「そもそも?」
- 問いを考えるための視点2 - どのような立場から問いを立てるとよい? -  
「企業の立場」「社員の立場」「消費者の立場」「社会 (国際的, 国内的) 視点」

• CSRについて問いをたてよう

**3** 企業の社会的責任 (CSR) に関する問いの中からグループで対話する問いを決めよう。

○グループで共有する問い

Q

**4** グループで対話する問いに関して各自で考えをまとめよう。

**5** 問いに対してグループで対話しよう。

○グループで出た考え・意見

**6** あなたの考え方は、授業前後でどのように変化しましたか? 今日話し合ったこと、他のグループの発表について、自分の考え、新たな問いなど感想を書こう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

※p4c の方法論（詳しくはテキスト 3 頁参照）を想定した解答例

## 企業の社会的責任 (CSR) について考える

年 組 番 氏名 [ ]

1 本時のテーマ：対話を通して企業の社会的責任 (CSR) について考えよう

2 資料をもとに企業の社会的責任 (CSR) に関する問いをそれぞれ考えよう。

- 問いを考えるための視点1—どのような「？」を立てるとよい？—  
「どのような？」「何？」「なぜ？」「どうすればよい？」「本当にそう？」「そもそも？」
- 問いを考えるための視点2—どのような立場から問いを立てるとよい？—  
「企業の立場」「社員の立場」「消費者の立場」「社会 (国際的, 国内的) 視点」

• CSRについて問いをたてよう

例：CSR を行うことは中小企業にとって不利では？ 社会で本当に役立つのか？ 企業はどこまで関わるべき？何をもってCSRというの？ CSR が社会に何をもたらしているの？ 企業は利潤を求めなくてよいの？

3 企業の社会的責任 (CSR) に関する問いの中からグループで対話する問いを決めよう。

○グループで共有する問い

Q 例：CSR と利潤追求は両立できるのか？

4 グループで対話する問いに関して各自で考えをまとめよう。

さまざまなツールを活用し各自で情報収集し、意見をまとめます。

5 問いに対してグループで対話しよう。

○グループで出た考え・意見

グループでの対話の内容をここでまとめ、自分の考え（授業前後の変化を含む）を整理します（目的は、生徒が自身で自らの考え方を振り返り、その変化に気づくことで、リフレクションを行うこと）

6 あなたの考え方は、授業前後でどのように変化しましたか？今日話し合ったこと、他のグループの発表について、自分の考え、新たな問いなど感想を書こう。

（授業実践での生徒の感想より）

私は自分が考えた問いとグループで考えたことが一致しました。しかし、他のグループの発表を聞いてみると自分たちが出した結論と矛盾しているところがあったので、CSR を「利潤を含めた慈善活動」か、そうではないかといった点でも結論が変わることがわかりました。また、自分たちが出した CSR についての結論は大企業についてしか考えられていなかったの、他のグループが発表した中小企業についての結論は異なっていて面白いと思いました。そして、自分たちのグループで結論を出した後で新たな問いとして国内の全ての企業でCSRをしながら利潤を追求するためにはどうしたらいいのかということも少し考えられたので良かったです。